

ソフトバンクグループ
CSRレポート
2013

Message from CEO

情報革命で人々を幸せに

ソフトバンクグループは、創業以来一貫して、情報革命を通じた人類と社会への貢献を推進してきました。

人々にとって幸せとは何か。

「愛し愛されること」「日々生きていること」「自己実現」「笑顔」、多くの答えがあると思いますが、幸せとは、感動することと同義であると考えます。ソフトバンクグループが、何のために事業をしているのか、何を成したいのかといえば、一人でも多くの人の喜びを増やしたい、そして悲しみを減らしたいということに尽きます。われわれの創業以来の志が、「情報革命で人々を幸せに」というこの経営理念に凝縮されているのです。

ソフトバンクグループでは、この経営理念の下、「ソフトバンクグループCSR基本方針」を掲げ、お客さまや株主、取引先の皆さま、従業員を含めた全てのステークホルダーの皆さまの信頼に応える企業経営に向けて、コンプライアンスや情報セキュリティなど、信頼の基盤を築く活動に注力しています。

中でも、2011年3月11日に発生した東日本大震災を受け、より一層通信ネットワークの信頼性を確保するための取り組みを行うことはもちろん、「忘れない 今も これからも」というスローガンの下、長期的な支援活動の仕組みや、自然エネルギーを活用した発電事業による地球環境を考慮した持続的な事業モデルの構築を図っています。

ソフトバンクグループは、「世界一の会社」を目指して、世界に挑戦します。ただ、最も大切なのは世界一の会社になった後に、「人類に何を残せるか」ということです。人々に感謝され、人々に尊敬されて初めて、われわれの存在に意義が生まれると考えています。『情報革命で人々を幸せに』この唯一の願いのために、ソフトバンクグループ全社員が一丸となって、事業に取り組んでいきます。



ソフトバンクグループ
代表

孫 正義

CONTENTS ソフトバンクグループCSRレポート 2013

- 4 ソフトバンクグループについて
- 5 ソフトバンクグループCSR基本方針

[復興支援特集]

6 あの日を忘れない 今も これからも。

ソフトバンクグループは、東日本大震災直後から現在に至るまで、
さまざまな形で復興支援に取り組んでいます。
そこに込められたソフトバンクグループの想い、
被災者の方々の声をお届けします。

8 Report:1 [災害対策] 震災を教訓に、万が一に備えて。

ライフラインである情報通信を絶やさないために、
少しでも防災の手助けとなるために、
さまざまな災害対策に取り組んでいます。

10 Report:2 [自然エネルギーの普及] 自然エネルギーで安心・安全な社会へ。

ソフトバンクグループは自然エネルギー活用の普及を目指し、
発電事業、環境教育に取り組んでいます。

12 Report:3 [アイデアコンテスト] 一人ひとりの力を社会貢献へ。

ソフトバンクグループの一員として
一人ひとりが社会貢献に目を向けるように、
そしてそのアイデアを生かせる仕組み作りを行っています。

14 ソフトバンクグループのCSR活動 2012年度実績と2013年度予定

[報告期間] 2012年4月～2013年3月

[報告範囲] ソフトバンクグループ(国内連結子会社)

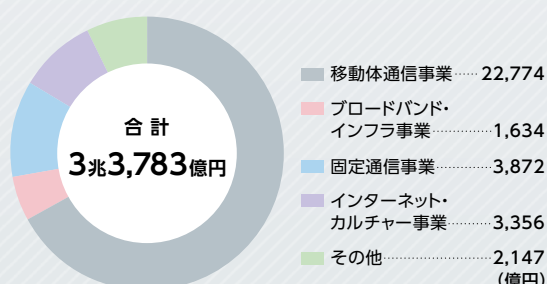
世界の人々から最も必要とされる 「インターネットカンパニー」

ソフトバンクグループは、インターネットを事業基盤として「移動体通信事業」、「ブロードバンド・インフラ事業」、「固定通信事業」そして「インターネット・カルチャー事業」の4つの事業領域を中心に、数多くのグループ企業が事業を展開。高速通信ネットワークのインフラをもち、その上で国内最大のポータルサイトや各種のコンテンツサービスプロバイダーが揃い、さらにソフト販売などの関連事業も拡充しています。

ソフトバンクグループは、ブロードバンドの本当の快適さと、あらゆる情報サービスを利用できる喜びを提供する世界に例を見ない「インターネットカンパニー」で、創業30年を迎えた2010年に「ソフトバンク新30年ビジョン」を発表。「世界の人々から最も必要とされる企業グループ」を目指し、引き続き情報産業に事業領域を集中して、時代に必要とされる最先端のテクノロジーと最も優れたビジネスモデルにより、情報革命を推進していきます。

社名	ソフトバンク株式会社 SoftBank Corp.
設立年月日	1981年9月3日
本社所在地	〒105-7303 東京都港区東新橋1-9-1
代表者	代表取締役社長 孫 正義
資本金	2,137億97百万円
連結子会社数	150社
従業員数	187人(連結ベース24,598人)

■ ソフトバンクグループの
連結売上高構成比(2012年度)



■ ソフトバンクグループの事業領域と グループ企業

移動体通信事業

ソフトバンクモバイル株式会社

ブロードバンド・インフラ事業

ソフトバンクBB株式会社

固定通信事業

ソフトバンクテレコム株式会社

インターネット・カルチャー事業

ヤフー株式会社
株式会社IDCフロンティア

その他

パソコン向けソフトウェアや周辺機器の流通事業
福岡ソフトバンクホークス関連事業 ほか

アイティメディア株式会社
SBアットワーク株式会社
SBエナジー株式会社
SBプレイヤー株式会社
株式会社カービュー
ソフトバンク・テクノロジー株式会社
ソフトバンク・ペイメント・サービス株式会社
ソフトバンク メディアマーケティング ホールディングス株式会社
ディーコップ株式会社
TVバンク株式会社
株式会社日本サイバー教育研究所
福岡ソフトバンクホークス株式会社
福岡ソフトバンクホークスマーケティング株式会社
株式会社ベクター

ソフトバンクのCSR

志あるインターネット社会を作る責任

ソフトバンクグループは、グループ各社が相互にシナジーを発揮しながら、それぞれの事業領域においてお客さまから最も支持され、信頼される企業になることを目指しています。また世界中の志を同じくする企業と協働し、世界の人々の幸せにつながる新しい価値の創出に挑戦し続けています。

高速ブロードバンドネットワークをもつことは、情報という名のライフラインを守る重要な使命と責任を負っていることでもあります。この大きな社会的な責任を完遂するためにソフトバンクグループは、常にお客さまの「うれしい」から考え始め、成長への果敢な挑戦を通じて株主の皆さまの期待に応え、挑戦が成長を生む環境を整えて従業員のやりがいと誇りを大切に、相互信頼と革新をベースにしてお取引先との発展を期し、そして健全なインターネット社会の夢と志を次世代に受け継げるような社会への貢献を続けていきます。

ソフトバンクグループCSR基本方針

あすのインターネット社会へ

私たちは…

私たちソフトバンクグループは、「情報革命で人々を幸せに」という経営理念の下、事業を通してステークホルダーの皆さまと共に発展を遂げる企業でありたい。そのために、私たちは、自らにこう問いつづけます。

創っているだろうか

ワクワクする驚きを。わかりやすさと安心を。みんなの「うれしい」を。
ソフトバンクグループは、**お客さま**本位でありつづけます。

進めているだろうか

成長へのあくなき挑戦を。健全で透明な経営を。公正で適時な情報開示を。
ソフトバンクグループは、**株主**の皆さまの期待に応えていきます。

持っているだろうか

チャレンジと成長の場を。個性が活かされる環境を。頑張りと成果が評価される仕組みを。
ソフトバンクグループは、**従業員**のやりがいと誇りを大切にします。

築いているだろうか

相互の信頼を。公正な取引関係を。革新を生み出すパートナーシップを。
ソフトバンクグループは、**取引先**の皆さまと共に発展していきます。

育んでいるだろうか

健全なインターネット社会を。夢と志をもつ次世代を。地球の未来を。
ソフトバンクグループは、人々が幸せになる**社会**作りに貢献します。

ソフトバンクグループは
あすのインターネット社会にむけて、志高く事業に取り組んでまいります。

あの日を忘れない 今も これからも。

東日本大震災から2年。ソフトバンクグループは被災地の復興のために、さまざまな形で支援を続けています。しかし、これはまだほんの第一歩。これからも引き続き被災地の皆さまを応援し続けます。

TOMODACHI ソフトバンク・リーダーシップ・プログラム 復興を支える被災地の高校生の未来のために。

ソフトバンクは、震災で被災した高校生を、カリフォルニア大学バークレー校で行われる3週間の集中プログラムに無償で招待します。米国滞在中、高校生は問題解決型のワークショップを通してリーダーシップと地域貢献をテーマに学びます。2012年夏のプログラムには、300名の高校生が参加しました。また、2013年夏も新たな高校生の参加が決まっています。



米国で学んだことを活かして、 観光でいわきを元気にしたい。

白岩 春奈さん(右から3人目) 平商業高校2年生



田部 翔太さん(左から1人目)・宗像 萌さん(左から2人目)・瀬戸 葵さん(左から3人目)
矢代 悠さん(右から2人目)・芹澤 峻さん(右から1人目)

震災後、周りの大人たちが復興や支援に奔走するなか、何もできない自分にもどかしさを感じていました。そんな時に「TOMODACHIサマー2012 ソフトバンク・リーダーシップ・プログラム」の存在を知り、地元のために役立つことを学べると思い応募。アメリカでリーダーシップや地域経済の活性化について学びました。帰国後、この経験を活かして地元いわき市を観光で活性化させるために立ち上げたのが「TOMOTRA」です。アイデアが浮かばず悩んだこともありましたが、仲間たちの奮闘や大人の方たちのサポートもあり、いわき市の魅力を伝えるバスツアーを実現することができました。今後もこの活動を続け、いわき市を観光で元気にしていきたいです。

被災地の高校生が
観光客誘致の
ツアーを企画。

TOMOTRA
(トモトラ)



TOMOTRAは、TOMODACHI TRAVELの略称。「TOMODACHIサマー2012 ソフトバンク・リーダーシップ・プログラム」に参加した福島県いわき市の高校生たちが、震災で観光客が激減した地元を盛り上げるために結成



しました。大手旅行会社の株式会社エイチ・アイ・エス(H.I.S)とソフトバンクの協力の下、地元産業の「竹ちくわ作り」など、いわき市の魅力を体験できる観光ツアーを企画しました。

URL ▶ <http://youth-iwaki.jimdo.com/tomotra>

東北の子どもたちへ、
継続的な支援を!



チャリティホワイト

チャリティホワイトは、お客さまとソフトバンクグループで東北の子どもたちを継続的に支援する取り組みです。毎月の基本使用料に加えお客さまに10円をお支払いいただき、ソフトバンクグループも同額を拠出することで、合計20円を毎月寄付しています。2013年6月1日現在で150万件以上のお申し込みがあり、寄付金の総額は1億4,000万円を超えました。

■ チャリティホワイトの寄付先

チャリティホワイトで集まった寄付金は、下記の2団体を通じて東北の子どもたちを支援する活動に使われています。



あしなが育英会

▲あしなが育英会
▲赤い羽根
「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」

風評被害を受けない、
地場産業復興を支援。

福島県相双地域IT教育支援



ソフトバンクモバイルは、福島県相双地域の雇用創出を目的として、「相双地域雇用創造推進協議会」の委託を受け、2012年8月から南相馬市において「携帯アプリクリエイター養成講座」を開催しています。

■ 携帯アプリクリエイター養成講座

プログラミング初心者が、スマホ向けアプリを作成する技術と知識を習得できる講座。2013年3月には受講者が作成したオリジナルアプリの発表会が行われました。

〈受講者の声〉

この講座をきっかけに、「南相馬ITコンソーシアム」に就職しました。今後は学んだ技術を教えることで、地域に貢献していきたいです。

石田 諭さん



インターネットカンパニー
だからできる、
さまざまな復興支援に
取り組んでいます。

東北の息吹を感じる名産品を、
全国へ向けて発信。

復興デパートメント

Yahoo! JAPANが事務局を務める、産地直送品や伝統工芸品などの東北地方の特産品をインターネットで販売するプロジェクト。「被災地のために購入したい」ではなく、「あの商品だから買いたい」と、購入者の意識を変える取り組みを東北の方々と一緒に行っています。



〈商品例〉 1.PARTAGE TOTE/パルタージュ トート
ポーチ付き 2.Hiyuca(ヒユカ)/クロストート
バッグ 気仙沼×石巻×女川 3.lie(イー)/会津
木綿ストール ショート 4.ふくしまピースプロジェ
クト/ふくいるピアス 5.CUFFZ(カフズ)×女川
アートギルド コラボレーション/本革 ミニクラ
ッチバッグ

■ ヤフー石巻復興ベース

ヤフーの復興支援事業の拠点として、
2012年7月に宮城県石巻市に開所。

Yahoo! JAPANの現地事務所として社員が
常駐し、復興デパートメントなどのプロジェクトに
取り組んでいます。石巻市の住民や関係者が利用できる「コワーキングスペース」を併設しており、新しいアイ
ディアや事業形態が生まれる拠点となっています。



▲屋外には仕事や交流に使える
ウッドデッキを設置



▲復興デパートメントに出店する
石巻工場の家具を揃えた交流サロン

〈コワーキングスペース〉
インターネット環境や動画
配信ができるUstream設
備、カフェとキッチンをイメ
ージしたオープンエリアな
どを備えています。



震災を教訓に、 万が一に備えて。

「情報通信はライフラインである」ことを改めて認識した東日本大震災。最強のライフラインを築き、災害に備える取り組みに力を注いでいます。

「防災速報」の普及と 「災害協定」の推進を目指す

一東日本大震災から2年以上が経ちました。現在、ヤフーでは、どのような取り組みを行っていますか？

に住民の方がいつでもアクセスできるよう、Yahoo! JAPANが情報を集約・整理して提供するための協定です。—「防災速報」と「災害協定」に対する反応はいかがですか？

100以上の地方自治体と締結しています。地方自治体の防災担当者のヤフーへの期待は非常に高いと手応えを感じています。

“災害時の行動を指示する 情報を充実させたい。”

高 「防災速報」は、2013年6月現在、230万人以上の方にご登録いただい

高橋(以下高) 震災から数ヵ月経ち、緊急ニーズが落ち着いた後に高まってきたのは、いち早く災害情報を知りたいというニーズでした。そこで、急速

に普及が進んでいたスマートフォンを活用して、地震などの災害情報をプッシュ通知する「防災速報」というアプリを開発して提供しました。

鈴木(以下鈴) 災害の予測情報に加えて、今後は災害時の行動を指示する情報を充実させることが重要

だと考えています。そのために現在推進しているのが、地方自治体との「災害協定」です。これは、地方自治体が発令する避難勧告や避難指示などの情報



ています。テレビやラジオが発信する全国の情報と異なり、登録者が知り

“スマートフォンは災害時に 一番アクセスしやすいメディア。”

たい地域の情報がピンポイントでわかることが、好評の要因でしょう。

鈴 「災害協定」は、2013年6月現在、

ヤフーだからできる 災害情報を提供していく

—今後は、どのような取り組みを行っていきたいとお考えですか？

高 熱中症や豪雪、インフルエンザなど、「防災速報」で提供する情報をもっと増やしていきたいですね。スマートフォンは、災害時に一番アクセスしやすいメディアですから、スマートフォン向けのサービスをより充実させていきたいと考えています。

鈴 地方自治体のお話をうかがっていると、「災害協定」の範囲内に収まらないニーズも多くあり

ます。そうしたニーズをヤフーのサービスで提供できないか検討していきたいですね。



「防災速報」に登録すると災害時にプッシュ通知で災害情報が届く。

Yahoo! 防災速報

最大3地域の地震、豪雨、津波などの災害速報を受け取れる無料サービス。自宅、実家、勤務先などを設定すれば、家族の危険を察知することができます。

8つの災害に対応

- 地震情報
- 豪雨予報
- 津波予報
- 気象警報
- 噴火警報
- 放射線量
- 電力使用状況
- 計画停電



スマートフォンアプリ、ケータイ・パソコンメールで受信可能。

ソフトバンクグループの災害対策

災害時の
ネットワーク維持・復旧

災害時でも

「つながりやすさNo.1」へ

重要なライフラインである通信ネットワーク。大規模災害時にその通信ネットワークを守り、一刻も早い復旧を実現するために、ソフトバンクグループは大規模災害対策準備室を設立して取り組みを続けています。ハード面では、移動基地局車、可搬型移動基地局、電源車や貸出用の衛星携帯電話などを全国に配備。また重要エリアの基地局についてはバッテリー容量増強を実施。ソフト面においては、災害発生から復旧までを効率的に実現するためのルール策定のほか、各自治体や自衛隊との災害対策訓練に取り組んでいます。

気球無線中継システムの配備

災害などで通信障害が発生している通信エリアを迅速に復旧させることを目的に、広範囲に電波を届けるために必要な高さのある基地局を構築できる「気球無線中継システム」を開発。全国主要拠点に本システムを配備しました。



移動基地局車・可搬型移動基地局の配備

移動基地局車100台、可搬型移動基地局200セットを全国の各拠点に配備。大規模災害時には近隣地域より速やかに出動し、早期の通信エリア確保を実現します。

衛星携帯電話・携帯電話貸出

緊急時や災害時に、公共団体やNPO法人等向けに貸し出す衛星携帯電話・携帯電話を1,000台、さらに避難所などへ避難された方の連絡手段として、携帯電話とPHS合わせて4,200台を配備し、無料通話サービスを提供します。



防災だフォン

視認性の高いコンパクトなパッケージで保管。単4型アルカリ乾電池3本で約3.5時間の通話が可能。



イエデンワ (WX02A)

家庭にある据え置き型のデザイン。単3型アルカリ乾電池4本で約10時間の通話が可能。

乾電池対応PHSを発売

自宅、オフィスの災害対策をサポート

株式会社ウィルコムは、災害時に乾電池で利用可能な固定電話型PHS「イエデンワ」、備蓄用PHS「防災だフォン」を発売。PHSは、東日本大震災時にも通話規制が行われなかった実績もあるため、万が一の際の通信手段として有用だと考えられています。また、携帯電話、固定電話とは異なるネットワークを利用するPHSは、通信インフラの多重化を実現するツールとして、さまざまな企業が導入・検討を進めています。

衛星電話を発売

災害時に通信手段を確保

ソフトバンクモバイル株式会社は、衛星回線を介して通信ができる衛星電話サービスを2013年2月より開始。災害発生時などに通常の携帯電話用通信基地局などが被害を受けた場合や、非常時に国内ネットワークが混雑した場合でも、影響を受けずに通信できます。



SoftBank 201TH

■ 災害時でも
安定した通信が可能。



■ 国内外の広いエリアで利用可能。



対応エリア

[自然エネルギーの普及]

自然エネルギーで 安心・安全な社会へ。



東日本大震災を契機に注目を集めるようになった自然エネルギー活用。

ソフトバンクグループでは、その普及にさまざまな形で取り組んでいます。



SBエナジー株式会社
取締役副社長

藤井 宏明

ソフトバンクグループが目指しているのは、今後、自然エネルギーの普及を推進していく牽引役となることです。そのための取り組みとして、ソフトバンクグループの自然エネルギー事業を

“自然エネルギー普及を 推進する牽引役を目指す。”

担うSBエナジーを設立しました。SBエナジーでは、2012年7月1日、京都市と群馬県榛東村において、メガソーラー発電所の稼働を開始し、稼働から1年経った今、着実に成果を上げつつあります。また、2013年7月現在、全国で6ヵ所のメガソーラー発電所が稼働しており、全国9ヵ所で新たな自然エネルギー発電所建設プロジェクトが進行中です。



小学生向けの環境教育や 風力発電事業を新たに展開

今後、自然エネルギーを普及させていく上で重要なのは、国民全員のエネルギー問題への意識を継続的に高めていくことだと考えています。そのためのきっかけのひとつとして、力を入れている取り組みが、小学生向けの



体験型環境教育プログラム「未来×エネルギー プロジェクト」です。このプログラムでは、未来を担う子どもたちがiPadなどを使い、環境・エネルギー問題を学び、地球の未来とエネルギーの未来を自由な発想で考えています。このような、子どもたちの主体性や創造性を引き出す学びが高く評価され、

2013年2月、経済産業省の「第3回キャリア教育アワード」で奨励賞を受賞しました。

また、自然エネルギーを活用した新

しい事業として、風力による発電にも取り組んでいます。2015年度中の運用開始を目指し、現在は島根県浜田市において建設が進行中です。今後は、バイオマスや地熱といった自然エネルギーの事業化も検討し、ソフトバンクグループとしてエネルギーのベストミックスに貢献していきたいと考えています。

固定価格買取制度開始から1年、 5ヵ所で メガソーラーの運転を開始

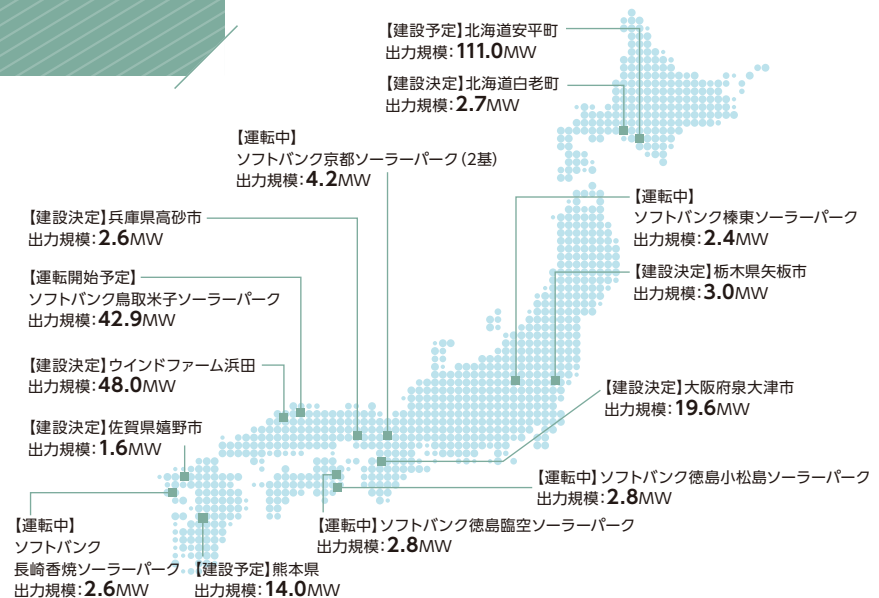
東日本大震災によって発生した福島第一原発の事故以来、これまで日本が行ってきた原発依存型・大規模集中型の発電システムに対する世論の批判が高まりました。これからは、自然エネルギーを含めたエネルギーのベストミックスを追求するとともに、災害に強い分散型の発電システムへの転換を目指すことが求められます。

ソフトバンクグループの環境への取り組み

自然エネルギー事業

全国でメガソーラー発電所、
風力発電所を建設。

SBエナジーでは、2012年7月1日に稼働を開始した京都市および群馬県榛東村のメガソーラー発電所を皮切りに、2013年7月現在、全国で6カ所のメガソーラー発電所が稼働しています。さらに、全国9カ所で新たな発電所を稼働させる準備を進めています。SBエナジーでは、今後も全国にメガソーラー発電所および風力発電所の建設を推進していきます。



初の風力発電所「ウインドファーム浜田」を島根県浜田市に建設。

SBエナジーでは、三井物産、グリーンパワーインベストメントとの共同事業として、島根県浜田市に風力発電所を建設します。SBエナジーとして初となるこの試みは、2015年度中の

運転開始を目指し、2013年6月に建設が着工しました。1基あたり1,670kWの風力発電機を29基設置。出力規模は約48MWで、年間発電量は8,500万kWhを見込んでいます。



未来 × エネルギー プロジェクト

環境問題やエネルギー問題について
子どもたちが考える機会を提供。

SBエナジーでは、株式会社エデュアス、株式会社 教育と探求社と共同で、iPadなどの携帯情報端末を活用し、小学生向けに体験型の環境教育を行うプログラム「未来×エネルギー プロジェクト」を提供しています。未来を担う子どもたちが、環境問題やエネルギー問題について、主体的かつ創造的に考える機会を提供することがこのプログラムの目的です。身の回りのエネルギーの存在や生活の中でのエネルギーの使われ方、自然界に存在するエネルギーの活用方法を、ワークブックや動画コンテンツなどの教材、グループワークなどを通じて学習することで、子どもたちが能動的に学び、理解する意欲を引き出します。



「第3回キャリア教育アワード」で奨励賞を受賞。

「未来×エネルギー プロジェクト」は、経済産業省が産業界による優れた教育支援活動を表彰する「第3回キャリア教育アワード」において、地域密着型キャリア教育部門で奨励賞を受賞しました。

普段の授業では見られない
積極的な姿が印象的でした。

iPadを教材に使うことで、普段はおとなしい子も活発に学んでいました。全員が自分の意見を発表しようと手を挙げる積極的な姿が印象的でした。



榛東村立北小学校
高坂 泉 先生

学校や授業を楽しんでいる
きっかけになると思います。

子どもたちがそれぞれの思いや考えを伝え合う、効果的な授業だと思いました。学校や授業を楽しんでいるきっかけになる学びだと思っています。



榛東村立北小学校
市村 正好 校長

一人ひとりの力を 社会貢献へ。



従業員一人ひとりがCSR、社会貢献に目を向け、
その力をソフトバンクグループとして集約するための取り組みを行っています。

社会に貢献するビジネスアイデアコンテスト

社会のニーズに応える先駆的なアイデアを
発掘するとともに、従業員が改めて社会のニ
ーズなどについて考える機会となるよう、社員
から社会貢献に関するビジネスアイデアを
募り、選考を経たものを事業化するコンテスト
を2012年より開催しています。

■ これまでの実施概要

【実施】 第1回：2012年1月
第2回：2012年7月
第3回：2013年2月
【対象】 ソフトバンクグループ
企業52社
【応募総数】 約800件
【採用事例数】 6件



採用事例 1.

旅バリふらっと伊勢志摩

コンテスト 応募概要

【発案者】 ソフトバンクモバイル MD本部 榊原清弘、ソフトバンクテレコム 法人サービス営業本部
杉愛弓、ソフトバンクBB カスタマーサービス本部 長瀬浩明、
ソフトバンクテレコム ネットワーク本部 藤本建、計4名が類似案を応募
【内容】 車イス利用者に向けたバリアフリー観光情報の提供

グループのIT技術を生かし、 車イスでも旅行を楽しめるように

第1回ビジネスアイデア
コンテストにおいて、類似
のアイデアを提出した4名
の社員がプロジェクトを組
んで検討を重ね、NPO法
人日本バリアフリー観光推進機構、NPO法人自立支援セン
ターむくの協力のもと、2013年4月よりサービス提供を開
始。それぞれがさまざまなきっかけで感じたバリアフリーの
問題を、ソフトバンクグループのIT技術で解決する社会貢
献策を実現しました。普段の業務では接点のなかったメン
バーが、それぞれの思いを胸に力を合わせ、ひとつのアイ
ディアをサービス提供にまで至らせる結果を生みしました。



[旅バリふらっと伊勢志摩]

全国の観光スポットなどの
情報配信サービス「ふらっと
案内」で、散策コースなど、
NPO法人日本バリアフリー
観光推進機構が提供するバ
リアフリー観光情報を閲覧
することができます。



■ ふらっと案内

位置情報を利用し、近くの観光スポットや散策
コースの情報を入手できる、ソフトバンクモバ
イルが提供するスマートフォン向けアプリ。



採用事例 2. シニアクルー

コンテスト
応募概要

[発案者] ……………ソフトバンクテレコム 営業・事業推進本部 高野真介
 [内容] ……………シニアの再雇用による生きがいの創出

シニアの力を、シニアのために

第2回 ビジネスアイデア
 コンテスト応募案の中から、
 シニア講師・販売スタッフの
 組織化を目指すアイデア
 が採用に。日本応用老年学
 会LLPと協力し、シニアの生
 きがい発掘と増加するシニ
 アユーザーの顧客満足向上の両立を目指し、2013年5月よ
 り業務委託によりシニアクルーの取り組みを開始しました。



[シニアクルー／シンプルスマホ教室]

シニアをターゲットとした「シンプ
 ルスマホSoftBank 2045H」の発売
 に合わせ、ターゲットと同世代とな
 るシニアクルーによるスマホ教室
 を開催。シニア層のスマートフォン
 利用をサポートします。



シンプルスマホ
 SoftBank 2045H

発案者インタビュー

プレゼントしたiPadを
 ほとんど使わない両親を見て、
 このアイデアを思いつきました。

思いついたきっかけは、私の両親です。以前、両親に
 iPadをプレゼントしたのですが、ほとんど使っていない
 ようでした。それを見て思ったのは、シニアの方にとって
 タブレット端末やスマートフォンは、想像以上に垣根が
 高いものだということ。どうすればその垣根を取り払い、
 手軽に楽しんでもらえるか。そこで閃いたのが、シニア
 クルーです。若い人には聞きにくいことでも、同年代の
 シニアクルーになら気軽に質問できると考えたのです。
 シニア層の雇用創出にもつながる面白いアイデアだと

思い、コンテストに応募。採用決定後は、近
 しいアイデアを考えていた社員とグルー
 プを組んでブラッシュアップさせ、実現す
 ることができました。シニアクルーをきっか
 けに、タブレット端末やスマートフォンを楽
 しむシニアの方が増えることを、
 発案者として期待しています。



ソフトバンクテレコム株式会社
 営業・事業推進本部

高野 真介

店舗営業インタビュー

シニアのお客さまと
 同じ目線に立った接客が、
 好意的に評価されています。

ソフトバンクモバイル株式会社
 常務執行役員 営業推進副統括
 兼 営業推進本部 本部長

佐久間 好明



シニアクルーは、販売の現場でお客さまから好評を
 得ています。評価されている理由は、シニアのお客さまと
 同じ目線に立っていることでしょうか。例えば、「タップ」や
 「ピンチ」などのスマートフォン用語は、シニアの方にと
 ってわかりにくいもの。それをシニアクルーは「叩く」や
 「広げる」など簡単な言葉で説明するため、お客さまは
 知り合いに教わっている感覚で、気軽に話せるのだと
 思います。実際、シニアクルーが担当するスマホ教室は
 盛況で、契約にもつながっています。今や携帯電話は、
 電気・ガス・水道と同様のインフラとなりつつあります。
 シニアクルーは、今後シニアの方にスマートフォンを浸透
 させていく上で、鍵を握る存在になるかもしれません。
 現在は試験的な運用ですが、こうした取り組みを継続
 していくことが、「情報革命で人々を幸せに」を経営理
 念とするソフトバンクの役割だと考えています。

ソフトバンクグループのCSR活動 2012年度実績と2013年度予定

【社名】の明記のないものはソフトバンクBB、ソフトバンクモバイル、ソフトバンクテレコムおよび一部グループ会社の実施

項 目		2012年度実績	2013年度予定
経営全般	CSR基本方針の策定	グループ全体のCSRの指針として「ソフトバンクグループCSR基本方針」を開示	グループ全体のCSRの指針として「ソフトバンクグループCSR基本方針」を開示
	体制、意志決定の過程及び構造	●ソフトバンク株式会社の取締役1名を「グループCSR推進責任者」、グループ主要各社の役員を「CSR推進責任者」に選任 ●年2回の「グループCSR連絡会」を通じて情報共有・交換の実施	●ソフトバンク株式会社の取締役1名を「グループCSR推進責任者」、グループ主要各社の役員を「CSR推進責任者」に選任 ●年2回の「グループCSR連絡会」を通じて情報共有・交換の実施
	CSR重要課題の特定	①健全なインターネット社会を ②夢と志を持つ次世代を ③地球の未来を(環境保全)	以下をCSR重要課題として実績と目標を公開(ISO26000批准) ①健全なインターネット社会を ②夢と志を持つ次世代を ③地球の未来を(環境保全) ④被災地支援の取り組み
	コーポレートガバナンス	各社内外の監査部門による内部統制システムの検証・評価を実施	社内外の監査部門による内部統制システムの検証・評価を実施
社員との関係	雇用対策	●役割と成果、能力に応じた公正な評価を実施 ●男女、年齢、学歴、国籍等に関係なく実力ある人材を採用、登用 ●ESサーベイ年1回の実施と改善の推進 ●育児支援制度の充実 ●障がい者雇用の推進	●役割と成果、能力に応じた公正な評価を実施 ●男女、年齢、学歴、国籍等に関係なく実力ある人材を採用、登用 ●ESサーベイ年1回の実施と改善の推進 ●育児支援制度の充実 ●障がい者雇用の推進
	労働条件、社会保障	●ワークライフバランスのための各種制度を実施 各社、各部門ごとのノー残業デーの推進 / フレックスタイム制度の活用 / 各種休暇制度の取得推進 ●過重労働対策 ●災害時の安否確認システム ●「ファミリーデー家族の絆 FY12」を年3回開催	●ワークライフバランスのための各種制度を継続 各社、各部門ごとのノー残業デーの推進 / フレックスタイム制度の活用 / 各種休暇制度の取得推進 ●過重労働対策 ●災害時の安否確認システム ●「ファミリーデー家族の絆 FY13」の年3回開催
	コンプライアンス	●eラーニングによる浸透と測定 ●コンプライアンス・ホットライン(内部通報制度)の整備 ●コンプライアンス研修の実施 【Yahoo! JAPAN】 ●コンプライアンスセルフチェックの実施 【ソフトバンク・テクノロジー】 ●フリーアクセスラインの継続運営	●eラーニングによる浸透と測定 ●コンプライアンス・ホットライン(内部通報制度)の整備 ●コンプライアンス研修の実施 ●コンプライアンスセルフチェックのグループ展開 ●秋期にコンプライアンス月間
	安全衛生	●ここからだの相談窓口:ウェルネスセンター ●ホットライン ●急患発生時の連絡フロー ●メンタル面の予防・ケア ●マッサージルームの設置	健全な職場環境づくり、安全衛生体制の継続 ●ここからだの相談窓口:ウェルネスセンター ●ホットライン ●急患発生時の連絡フロー ●メンタル面の予防・ケア ●マッサージルームの設置
	人材育成・教育	●社長自身による後継者育成プログラム(ソフトバンクアカデミア) ●社員自ら選択できる豊富な研修プログラム(ソフトバンクユニバーシティ) ●社員からの提案を広く募集する仕組み(ソフトバンクイノベーション、社会に貢献するビジネスアイデアコンテスト) ●全社英語力向上施策の推進 ●TOEICスコアに準じたインセンティブ制度の導入(FY12) ●資格取得支援制度 【SBプレイヤーズ、SBアットワーク】 ●社員主導の組織活性化プロジェクトを実施 【SBプレイヤーズ】 ●社員からの提案を広く募る「提案箱」の設置 【サイバー大学】 ●語学学習ツールを提供 ●eラーニングシステムの運用	●社長自身による後継者育成プログラム(ソフトバンクアカデミア) ●社員自ら選択できる豊富な研修プログラム(ソフトバンクユニバーシティ) ●社員からの提案を広く募集する仕組み(ソフトバンクイノベーション、社会に貢献するビジネスアイデアコンテスト) ●全社英語力向上施策の推進 ●TOEICスコアに準じたインセンティブ制度の実施(FY13) ●資格取得支援制度
	環境	環境マネジメント	ISO14001(本社・札幌)規格認証
	資源利用量	●省エネの推進 ●各社電気使用量削減への取組み ●CO2排出量および削減施策のWEB開示 【アイティメディア】 ●スマートジャパン(節電・蓄電・発電に取り組む企業の課題解決サイト)運営	オフィス環境目標 ●電力消費量 2010年度比 ▲25%(本社)、▲20%(札幌) ●社内業務の紙使用量 2012年度4月比 ▲85%
	環境保護	●ペーパーレス化の促進 ●グリーン調達 ●植樹活動への参加 【SBエナジー】 ●自然エネルギーの推進	環境保全活動を継続的に実践 ●ペーパーレス徹底 ●ケータリサイクル ●ゴミの分別 ●使用済み文書の専用リサイクルボックスの活用 ●グリーン調達ガイドライン遵守の徹底 【SBエナジー】 ●自然エネルギーの推進
	資源の再利用	●ゴミの分別 ●使用済み文書の専用リサイクルボックスの活用	
	教育および意識向上	●ECO研修「環境豆知識」 ●「産業廃棄物の適正処理」、「電子マニフェスト」などについての社内eラーニング	●「産業廃棄物の適正処理」、「電子マニフェスト」などについてのeラーニングを実施し、関連法律・業務知識の向上 ●使用済み携帯電話の処理に関する知識の向上
		●電力使用状況メーターの掲載 ●節電意識の向上を図るページを社内イントラに掲載	●節電意識の向上を図るページを社内イントラに掲載

項 目		2012年度実績	2013年度予定
環境	教育および意識向上	【Yahoo! JAPAN】 ●電気予報の掲載 【アイティメディア】 ●スマートジャパンにて節電情報をWEB上で公開 【SBエナジー】 ●自然エネルギー・環境教育	【Yahoo! JAPAN】 ●電気予報の掲載 【アイティメディア】 ●スマートジャパンにて節電情報をWEB上で公開 【SBエナジー】 ●自然エネルギー・環境教育
ビジネスパートナーとの関係	公正な競争	●リパースオークション(電子入札)の実施 ●サプライヤー倫理行動規範の策定、WEB上での開示	●リパースオークション(電子入札)の実施 ●サプライヤー倫理行動規範遵守の徹底
お客様との関係	消費者の安全保護	●青少年向け情報モラル・リテラシー教育 ●フィルタリングサービスの提供 ●子供向け「みまもリケータイ2」発売 ●インターネットに関する他団体および公的会議への参加と提言活動 【Yahoo! JAPAN】 ●Yahoo! JAPAN IDガイド ●「Yahoo!ツールバー」のフィッシング警告機能	●保護者、教員向けの情報リテラシー教育「考えようケータイ」シリーズの推進 ●スマホにも対応するフィルタリングサービスの提供 ●ながら歩き、公共の場所での配慮点などケータイマナーについての注意喚起 ●インターネットに関する他団体および公的会議への参加と提言活動 【Yahoo! JAPAN】 ●フィッシング警告、ウイルス対策機能の提供
	消費者支援、苦情解決	●コールセンター利用者、店舗来店者へのお客様アンケート実施と活用 ●プロスタッフ認定制度 【ソフトバンクモバイル】 ●障がい者向けのIT支援推進 - 障がい者の学習・生活のためのIT支援の研究 / 知的障がいのある方の社会生活支援機能の実地検証 / 車いす利用者の方へのGPSを活用した観光情報の提供 【Yahoo! JAPAN】 ●各種WEBサービスパトロールの実施 ●ヘルプページの充実 ●的確な災害情報の提供 ●広告審査体制の充実 ●品質保持の取り組み	●お客様満足度向上のための各種施策を継続 - コールセンター利用者、店舗来店者へのお客様アンケート実施と活用 / プロスタッフ認定制度 / お客様サポートWEBソリューションの拡充 【ソフトバンクモバイル】 ●障がい者向けのIT支援推進 - 障がい者の学習・生活のためのIT支援の研究 / 知的障がいのある方の社会生活支援機能の提供検討 ●生活の「困り」を解決する、スマホ等の使い方のWEB掲載 ●高齢者向けのICT支援 - 高齢者向け端末の発売 / スマホ教室の実施(シニアクルー ホワイスタッフの登用) 【Yahoo! JAPAN】 ●各種WEBサービスパトロールの実施 / 的確な災害情報の提供
	消費者データ保護及びプライバシー	●全従業員への情報セキュリティに関する集合研修・eラーニングの実施 - セキュリティメールマガジンの定期的な発行 【ベクター】 ●情報セキュリティ強化策の執行 【Yahoo! JAPAN】 - 子会社ファーストサーバのサーバー障害によるデータ消失事故発生を受け、子会社への管理・監督を強化。また、ファーストサーバにおいては第三者調査委員会への諮問を通じて原因や再発防止策の検証を行い、開発・運用プロセスの見直しなど再発防止策を実施。	●全従業員への情報セキュリティに関する集合研修・eラーニングの実施 - セキュリティメールマガジンの定期的な発行 ●規格の認証取得・継続 ※ISO27001認証の維持継続
	教育および意識向上	●情報セキュリティ教育規定により情報セキュリティ教育を従業員へ実施 ●下請法についての勉強会を実施	●情報セキュリティ教育、eラーニングを全従業員へ実施 ●下請法他、各種関連法令にかかる勉強会を実施
	リスクマネジメント	●災害時を想定した訓練の実施 【ソフトバンク・テクノロジー】 ●リスク管理規程、事業継続管理規程、ISMS有効性評価マニュアル等を策定済み	●災害時を想定した訓練の実施 ●防災eラーニング「大規模地震への備えについて」の実施 ●全社的なリスクマネジメントをグループ他社へ拡大・推進 ●災害対策の検証や運用の定着
	必要不可欠なサービスへのアクセス	●各種監視／コールセンター拠点の分散化 ●移動無線車・可搬型無線機・発電機・避難所用貸出携帯など - 全国各地に配備 【アイティメディア】 ●データセンターの二重化 【ソフトバンク・テクノロジー】 ●OAネットワーク上に展開している業務システムVDI化ならびに商用ネットワーク分離などBCP対策の対応を推進	●ネットワークセンターの強化、蓄電池や発電機による基地局の24時間化(災害対策への取組み) ●BCP対策を推進 - 移動無線車・可搬型無線機・移動電源車・携帯発電機・貸出用携帯やソフトバンク衛星電話などを全国各地に配備 【ソフトバンク・テクノロジー】 ●OAネットワーク上に展開している業務システムVDI化ならびに商用ネットワーク分離などBCP対策の対応を推進
地域社会との関係	コミュニティーへの参画	●自治体主催イベント・会議への参加 ●被災地をはじめとした地域ボランティア活動の推進 ●世界少年野球大会への協賛 ●ソフトバンクグループ野球教室 in 東京へ協賛 【ソフトバンク・ペイメント・サービス】 ●福岡県・佐賀県社会福祉協議会へのメセナシート寄附 【サイバー大学】 ●コーポレート奨学生制度を新設 【Yahoo! JAPAN】 ●スポンサーシップ - JPC / SON	●自治体主催イベント・会議への参加 ●被災地をはじめとした地域ボランティア活動の推進 ●世界少年野球大会への協賛 ●ソフトバンクグループ野球教室 in 東京へ協賛 【ソフトバンク・ペイメント・サービス】 ●福岡県・佐賀県社会福祉協議会へのメセナシート寄附 【サイバー大学】 ●コーポレート奨学生制度を新設
被災地復興支援	東日本大震災	【ソフトバンクBB、ソフトバンクモバイル】 ●携帯料金による毎月寄付の枠組み「チャリティホワイト」130万件の支援の輪 【ソフトバンクモバイル】 ●被災地の経済活性化支援 - iPhoneアプリ技能開発支援および雇用創出 / 復興支援ソフトバンク商品券 【Yahoo! JAPAN】 ●東北地方の特産品をインターネットで販売する復興デパートメント ●インターネットを活用した継続的な被災地支援 - チャリティオークション / ボランティア情報の提供 / チャリティー募金 【ベクター】 ●「アルパカ・リーフ・プロジェクト」による募金	【ソフトバンクBB、ソフトバンクモバイル】 ●携帯料金による毎月寄付の枠組み「チャリティホワイト」を通じた継続的な支援活動 【ソフトバンクモバイル】 ●被災地の経済活性化支援 - iPhoneアプリ技能開発支援および雇用創出 / 復興支援ソフトバンク商品券 【Yahoo! JAPAN】 ●東北地方の特産品をインターネットで販売する復興デパートメント ●インターネットを活用した継続的な被災地支援 - チャリティオークション / ボランティア情報の提供 / チャリティー募金 【ベクター】 ●「アルパカ・リーフ・プロジェクト」による募金
		【ソフトバンク】 ●東日本大震災で被災した高校生300名を対象にしたリーダーシップ・プログラム第1回TOMODACHIプロジェクトの実施 【ソフトバンク・ヒューマンキャピタル】 ●被災者向け仕事情報サイト提供 http://onejob.jp/	【ソフトバンク】 ●第2回TOMODACHIプロジェクトの実施 【ソフトバンク・ヒューマンキャピタル】 ●仕事情報サイト提供

